

主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業改善

令和4年度コアティーチャープロジェクト部会中学校国語部会

〈授業の主旨〉

本授業は、「授業の改善」と「演習問題の活用」を両輪とし、主体的・対話的で深い学びを実現することを目的としたものである。

令和4年度の全国学力・学習状況調査中学校国語科の大問²では、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかをみるための問題が出題されている。「書くこと」の学習においては、「題材の設定、情報の収集、内容の検討」、「構成の検討」、「考えの形成、記述」、「推敲」、「共有」に関する各指導事項を身に付けることができるように、意図的・計画的に指導を重ねる必要がある。今回は、特に「考えの形成、記述」を中心に、自分の考えをより伝わりやすいものにするために、根拠を明確に示すことに重点を置いた授業づくりを行った。

単元名 情報を関係づける

教材名 複数の情報を関連づけて考えをまとめる

情報を関連づけて根拠を明確に示す（三省堂 「現代の国語2」）

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の実際

「共生社会の実現」に向けた自分の考えを、根拠を明らかにしながら意見文にまとめる
【単元に設定した言語活動】

【身に付けたい力】

- 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。
- 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えて、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。

第一次《課題をつかむ・見通す》

- 学習のゴールとして、「共生社会の実現」をテーマに意見文を書くことを伝え、学習の意欲付け、意識付けを行う。

第二次《課題解決のための読み》

- 「共生社会」について書かれた意見文を読んで理解したことや考えたことを、知識や経験と結び付けることで、自分の考えを広げたり深めたりする。(Cオ)
- 「共生社会に関するデータ」を読み、意見文との関連性について考えをもつ。(Cウ)

第三次《学習の振り返り・価値付け》

- これまでの学習を踏まえ、「共生社会の実現」をテーマに意見文を書き、その根拠を支える資料を示す。
- 意見文を交流し、根拠や示された資料の妥当性について評価し合う活動を通して、多様な考えに触れる。

【「主体的な学び」の実現に向けて】

意見文を読み、「共生社会」について関心をもった上で、「共生社会に関するデータ」の読み取りを行うことで、自分の考えを深めたり広げたりしていくという学習の見通しをもたせる。

生徒自身が、意見文と照らし合わせながら資料のもつ価値について分析・評価を行うことで、自分自身の意見文を書く活動につなげていこうという**追及意欲**をもたせる。

【「対話的な学び」の実現に向けて】

意見文との**対話**を通して、「共生社会」に対する筆者の考えに触れ、自分の考えを形成するきっかけとする。

意見文と照らし合わせながら資料のもつ価値について分析・評価を行うことで、**考えを広げたり深めたり**する。

グループや全体で意見文の交流を行うことで、**自分と異なる考え方や根拠の示し方**に触れ、説得力のある文章の書き方について考えを広げ深めさせる。

【「深い学び」の実現に向けて】

三つのJ（字数・時間・条件）を意識しながら意見文を書くことで、明確に考えを表現し、言葉の意味や働き、使い方を**自覚的**に捉えさせる。

交流を通して、互いの意見文を相互評価することで、**学習の成果や自分の高まりを実感**させる。